茨木市立東中学校　学力・体力向上ジャンプアップ計画

平成 28 年 10 月作成

1　今年度の結果と取組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

（領域ごと）

①口話すること・聞くこと
　概ね良好な結果であった

②書くこと
　概ね良好な結果であった

③読むこと
　概ね良好な結果であった。

④言語事項
　概ね良好な結果であった。

⑤関心・意欲・態度
　設問なし

（問題形式）

①選択式
　概ね良好な結果であった。

②短答式
　概ね良好な結果であった。

③記述式
　設問なし

（無解答率）

概ね良好な結果であったが、設問 4 二の無解答率が若干高かった。

（その他）

学校の特徴的なことについて記入
・もっとも正答率の高かった設問
　9 二 2　9 三イ
・もっとも正答率の低かった設問
　9 五
・もっとも無解答率の高かった設問
　9 一 2
・無解答がなかった設問
1 一、1 二、2 二、3 一、3 二、5 二、6 一、6 二、7 一　、7 二、9 三アイウエオ、9 四アイ、9 六、9 七 2

国語B

（領域ごと）

①話すこと・聞くこと
　設問なし

②書くこと
　概ね良好な結果であった。

③読むこと
　概ね良好な結果であった。

④言語事項
　設問なし

⑤関心・意欲・態度
　設問なし

（問題形式）

①選択式
　概ね良好な結果であった。

②短答式
　概ね良好な結果であった。

③記述式
　概ね良好な結果であった。

（無解答率）

概ね良好な結果であったが、記述式問題の無解答率が低かった。

（その他）

学校の特徴的なことについて記入
・もっとも正答率の高かった設問
　1 二
・もっとも正答率の低かった設問
　2 三
・もっとも無解答率の高かった設問
　3 三
・無解答がなかった設問
1 一、1 二　2 一、2 二　3 一、3 二

分析

概ね良好な結果であった。授業は落ちついた雰囲気があり、作業や話し合いもよくできる。

書くことの領域や記述式問題の正答率・無解答率の結果に、今後の課題がみうけられた。授業や定期考査等で様々な作文・小論文という課題に取り組んできた。これからも書く力の育成に努めることが求められる。

興味・関心を持つことができる文章を用い、言葉豊かに表現する力を高める。無解答率の高さが目立つことから、学習意欲の低い生徒、苦手意識の強い生徒の関心をどうやって高めるのか、また学力をつけさせることが課題となっている。

○●算数・数学●○

算数・数学A
（領域ごと）
①□数と式
概ね良好な結果であった

②図形
概ね良好な結果であった

③関数
概ね良好な結果であった

④資料の活用
概ね良好な結果であった

（問題形式）
①選択式
概ね良好な結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

③記述式
設問なし

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

学校の特徴的なことについて記入
・もっとも正答率の高かった設問
3(4)
・もっとも正答率の低かった設問
4(1)
・もっとも無解答率の高かった設問
12（1）
・無解答がなかった設問
1(2)(3)(4)　2(3)　3(2)　5(3)　6(2)

算数・数学B
（領域ごと）
①□　数と式
概ね良好な結果であった

②図形
概ね良好な結果であった

③関数
概ね良好な結果であった

④資料の活用
概ね良好な結果であった

（問題形式）
①□選択式
良好な結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

③記述式
概ね良好な結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

学校の特徴的なことについて記入
・もっとも正答率の高かった設問
1(1)
・もっとも正答率の低かった設問
6(2)
・もっとも無解答率の高かった設問
5(2)
・無解答がなかった設問
1(1)

分析

概ね良好な結果であった。

資料の活用の用語を理解し、答える問題に弱い傾向にある。これは問題に接する機会が少なく、何を聞かれているのか、何を答えたらいいのかわからなかったと思われる。（数Ｂでは「最頻値」「相対度数」という用語の理解、数Ａでは「同様に確からしい」の意味。）問題に接する機会を増やし、自分の意見を発信できる力をつける授業つくりを推進したい。

総合的には数値は高めで、数学を頑張ろうとしている生徒が多い。その理由として、中学１年時に専門支援員が、授業に入り込み、支援していることが考えられる。中１ギャップを解消するとともに、基礎学力の低い層に支援し、低学力層の底上げができている。また、単元ごとに提出物のチェックや、確認テストをし、形成的評価をしていることがあげられる。

無解答率の低いことも良好な結果であった。興味・関心を高められる授業ができたと思われる。学校目標における学力向上の取組みが効果をあげている。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析
年度により、若干の上がり下がりはあるものの、全体的に概ね良好な結果で推移している。
しかし、平均正答率の傾向では、今年度国語はプラス、数学はマイナスになり、全体でマイナスとなった。また、無解答率は若干増えた。

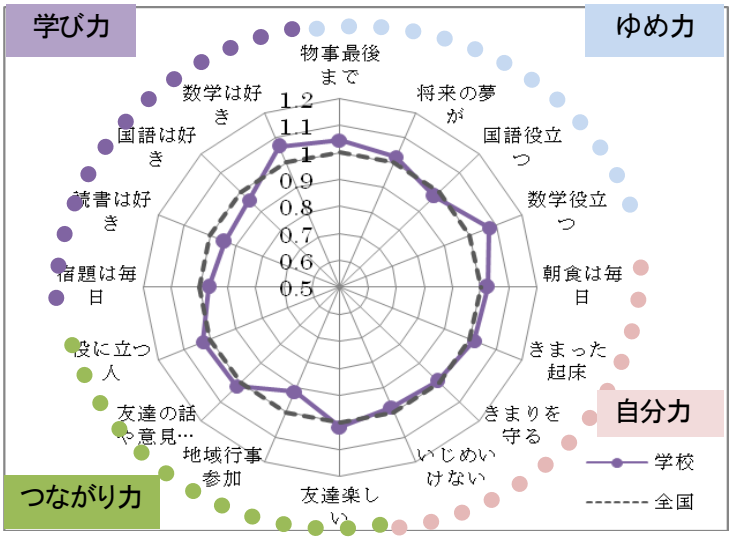
学力高位層と学力低位層についての分析
年度で変動はあるものの、高位層が多く低位層が少ない。その要因として１年生からの少人数授業や専門支援員の配置により個に応じた指導の成果である。しかし、今年度の４テスト平均は、高位層が減り、低位層が増えると言う傾向になり、注意が必要である。

○●取組み●○

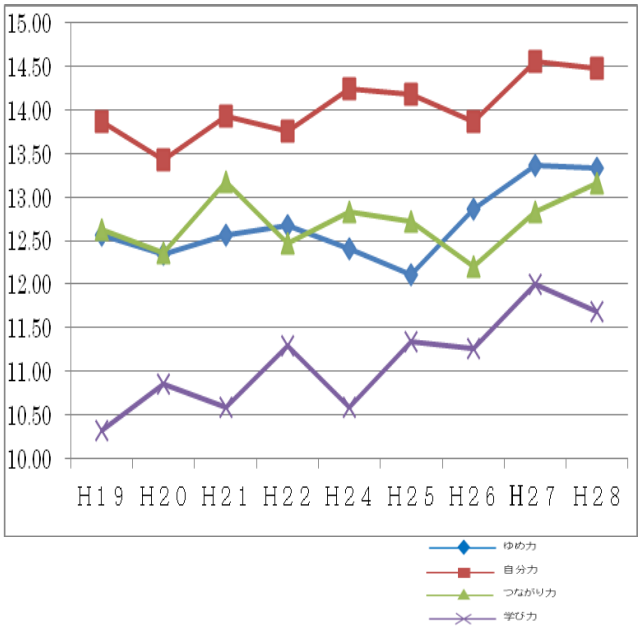
学力向上に関する取組み
今年度の目標（全教員で確認し、全教科、学校全体で取り組んでいること。）
授業づくり・学力保障の推進（学校教育目標　取り組みの重点より）
・興味関心を高める授業づくり、学習意欲の向上　・学力低位層の引き上げ
・小中連携の推進　・学力向上 18 の具体的な取組みの継承
主な取組
１　授業づくり
〈1〉授業についての共通理解
（1）　学習意欲を高める授業づくりをすすめる。
（2）　授業のユニバーサルデザイン化をすすめる。
「視覚化」
①言葉による指示からカードによる指示。
②視聴覚教材の利用、板書の工夫。（重点を分かりやすく色分けなどする。）
「構造化」
①1 時間の授業の目当てを明確化する。（「目標カード」を利用する。）
②授業の組み立てを分かりやすくし「よむ・きく・かく・等」の区切りを明確にする。
「協働化」
①ペア学習、グループ学習を取り入れ。学びあいの場面をつくる。
②ミニホワイトボードの利用。
〈2〉授業研究
（1）授業交流週間の実施
学期ごとに期間をもうけ、他の先生の授業を見学したり、教科で検討会を開いたりする。
（2）授業研の実施
学期ごとに今年度のテーマにそった授業研究を行う。
今年度のテーマ　「学ぶ意欲を高める～学びと学びあいのある授業～」
「協同化」の第３段階について研究する。
〈3〉授業規律を高める
①号令の徹底。②授業ルール１０か条の推奨。③学習規律を高める授業内容の工夫。
④学級の班づくり、集団づくりにつなげる。
２　小中連携の推進
合同授業研を実施する。
小中協同授業を実施する。
中学校が小学校の授業から学ぶ。
３　学力分析
全国学力学習状況調査の分析を行い、本校生徒の特徴を把握し、本校の授業づくりの成果と課題を明らかにする。
４　評価の研究
・観点に基づいた指導と目標に準拠した評価を行う。
・評価計画に基づいた授業を実施する。（指導と評価の一体化）
５　個別の指導と家庭学習の計画
（1）　対象を絞った学習会を学年で検討する。
（2）　家庭学習とつながった授業づくりをする。
・授業がわかる宿題の出し方と点検の研究
・授業と結びついた宿題の出し方と宿題点検の徹底

○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果



これまでの推移



分析

今年度の結果は、これまでの結果と比較しながらいくつかの項目で個別に分析していくと、向上している様子がみえてくる。

「ゆめ力」については、将来の目標を持つ生徒が多く、将来の目標を持っていたり、物事を最後までやり遂げて嬉しかったりと、前向きな生徒が多いことが伺える。

「自分力」については、朝食は毎日取っている生徒が多い。人の役に立つ人間になりたいと思うかの質問では全国より６ポイントほど高く、子どものやる気を引き出し、自己肯定感を醸成する取組みを実施することが有効に作用すると思われる。

「つながり力」については、昨年同様地域行事への参加意識が低い結果が現れている。人の気持ちが分かる人間になりたい、役に立ちたいと思う生徒については高い傾向にある。

「学び力」については、家で宿題をする生徒の割合が全国平均より少ない。特に土日家で全く学習しないと回答している生徒が２割いる。この現実を見据えて、課題の出し方や家庭での学習習慣を定着させることが課題である。「読書が好き」と答える生徒が低いので、「朝読書」「読み語り」を実施し、とともに、「図書館支援員」による学校図書館活動を充実していきたい。

取り組み

本校は、「めざす生徒像」として、次の４つを掲げている。

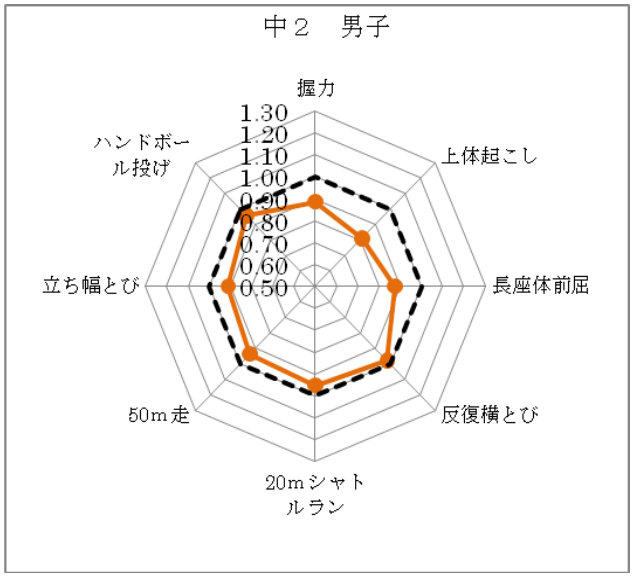
・自分を大切にし、仲間の思いをうけとめられる生徒
・自ら考え、判断し、行動できる生徒
・あいさつができ、感謝の気持ちを忘れない生徒
・自分としっかり向きあい、将来を見通す力をもつ生徒

この「めざす生徒像」をもとに教育活動を実践している。上記の分析から、「ゆめ力」や「学び力」のように、どちらかと言えば、各教科の授業を中心とした活動で育む力は、今後も継続して「授業づくり」を基本に取り組みを進めていく。「自分力」や「つながり力」のように、人間関係づくりを中心とした活動で育む力は、「いのちの学習（命と食と絆）」「生き方学習」「国際理解」「障がい理解」を中心テーマとする人権学習の中で育んでいる。「授業づくり」と「人権学習」は「集団づくり」や「キャリア教育」を基盤としている。

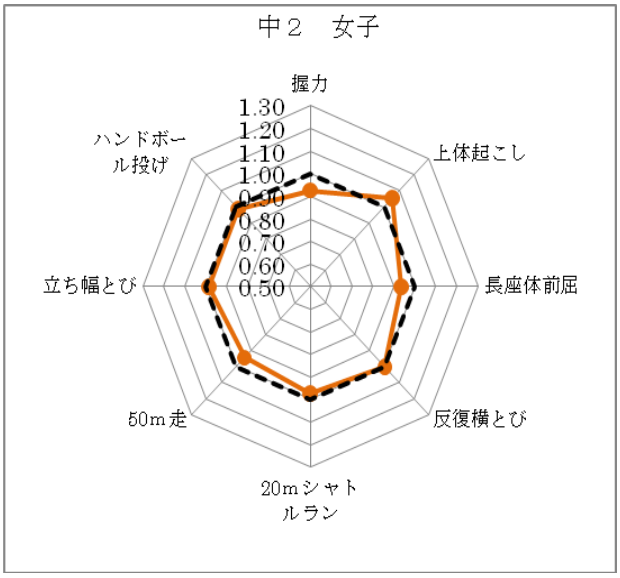
（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査　2016 年

○●体力●○

男子（中2）



女子（中2）



分析

男子は、全国平均と比べると全体的に低い結果となった。特に上体起こしは低い結果となった。女子は全国平均に近い結果が得られた。また女子については全国平均を超える種目もあった。

男子は上体起こしが低く、筋力、筋持久力に課題がある。しかしながら、ハンドボールなげ、20m シャトルランにおいて、全国平均に近く、ハンドボール投げの巧ち性、瞬発性、20m シャトルランの全身持久力にたけていることが分かった。全体的に課題の残る結果となった。

女子については、概ね良好な結果が得られた。特に、上体おこし、ハンドボール投げ、20m シャトルランにおいて、良好な結果が得られた。これは、全身持久力、巧ち性、筋力に長けていることを示す結果である。しかしながら、握力や５０ｍ走、では、若干の課題が残る結果であった。これは、筋力やスピードに課題があることを示す結果である。

取り組み

体力向上・体づくりには、「楽しく」「やる気」を持ってトレーニングすることが必要となってくる。そのために、体育の授業で授業の初めに体操やトレーニングによる、補強運動や筋力トレーニングを行うことで、より効果的な基礎体力の向上につなげるよう、取組みを進める。

また、気軽に体を動かすことのできる雰囲気づくりにつながるよう、昼休みに運動場でボール遊びをはじめとして、外に出て活動することを奨励する。

体を動かすことでの体力向上と並行して、何事に対しても最後まで粘り強くやりきる力の育成や、家庭・地域と連携し、バランスの良い食生活を送ることができるよう食育にも取組み、健康な体づくりができるようにする。

２　３年間の計画

（各校）　　（ブロック共通）

	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	授業づくり・学力保障の推進	基礎体力の向上と 体力向上への意識づけ	連携カリキュラムの作成
平成２６年度	**１　学ぶ意欲を高める授業づくり** ～学びと学び合いのある授業～ ①授業のユニバーサルデザイン化 「視覚化」「構造化」「協働化」 ②目標に準拠した評価のためのテスティング研究と実践 ③言語活動の充実 **２　家庭学習の推進**（全国との比較でマイナス 10 ポイント以内にする） ①授業とつながった宿題の実施 ②宿題点検の徹底（教科） **３　学力低位層の克服**（全国との比較で 0.8 ポイント以下にする） ①専門支援員との連携強化 ②ＳＳＷとの連携強化	体育の授業では体育委員を中心に授業はじめの体操・トレーニングにより、補強運動や筋力トレーニングを行うことで、基礎体力や体力向上につなげる。 体力診断テストの結果から、生徒状況を把握し、授業改善に努める。 生徒自身に自分の体力を知らせ、体力向上への意識づけを行う。 昼休み運動場での運動の奨励	東中学校・中津小学校・大池小学校の３校の「めざす子ども像」を決定する。 連携担当者会議の開催。 「いきいきスクール」の開催。 学校事務の共同実施。 ３校合同研修（含、授業研）の開催。 ３校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加。 中学校教員による授業。 保育所との連携。
平成２７年度	**１　学ぶ意欲を高める授業づくり** ～学びと学び合いのある授業～ ①「協働化」第３段階を充実 ②言語活動を全ての教科で進める **２　家庭学習の推進**（全国基準を０としたときマイナス５ポイント以内にする） ①家庭学習の手引き、保護者啓発 ②宿題点検（教科担任と学級担任） **３　学力低位層の克服**（全国基準を１としたとき 0.6 ポイント以下にする） ①習熟度別指導の充実（加配教員＋専門支援員で進める）	体力調査の各項目をバランス良く伸ばす 行事やレクレーションなど意欲的な活動を通し体力向上につなげる。 食育を教科学習として行う。 最後まで力を出し切る体験を充実する。 ＰＴＡの協力による啓発活動	３校の「めざす子ども像」に基づき、合同授業研（研修会）を２回以上実施。 連携担当者会議の開催。（年間計画の交流・調整、連携カリキュラムの検討） 「いきいきスクール」の開催。 学校事務の共同実施。 ３校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加。
平成２８年度	**１　学ぶ意欲を高める授業づくり** ～学びと学び合いのある授業～ ①「協働化」第３段階を全ての教科で進める ②総合的な学習の時間の充実 **２　家庭学習**（全国基準並みにする） ①自学自習ノートの活用 **３　学力低位層の克服**（全国基準を１としたとき 0.4 ポイント以下にする） ①習熟度別指導の充実（個に応じた学習） ②自主的共同学習の実施	体力調査４項目以上で全国平均並みにする。 食育の充実（教科学習、委員会活動、部活動等で行う） 家庭での食事、運動について協力を得る（啓発活動）。 体育の授業での運動量の充実。部活動の一層の推奨。	３校の「めざす子ども像」に基づき、合同授業研（研修会）を３回実施。 連携担当者会議の開催・深化。 「いきいきスクール」の開催。 学校事務の共同実施。 ３校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加を増やす。 連携カリキュラムの完成。